

## 週間火山概況 (平成 22 年 6 月 11 日 ~ 平成 22 年 6 月 17 日)

### 【火山現象に関する警報及び予報の発表状況】

いずれの火山についても、噴火に関する予報警報事項（警戒すべき事柄）に変更はない。

表 1 火山現象に関する警報及び予報の発表履歴（6月11日～6月17日）

発表日時	火山名	警報・予報	概要
毎日 07 時、17 時	三宅島	火山ガス予報	島内の火山ガスの分布予想

表 2 6月17日現在の噴火警報及び噴火予報等の発表状況

警報・予報	噴火警戒レベル 及びキーワード	該当火山
火口周辺警報	レベル3（入山規制）	桜島
	レベル2（火口周辺規制）	三宅島、霧島山（新燃岳）、薩摩硫黄島、諏訪之瀬島
	火口周辺危険	硫黄島
噴火警報及び火山現象に関する海上警報	周辺海域警戒	福德岡ノ場
噴火予報	レベル1（平常）	雌阿寒岳、十勝岳、樽前山、有珠山、北海道駒ヶ岳、岩手山、秋田駒ヶ岳、吾妻山、安達太良山、磐梯山、那須岳、草津白根山、浅間山、御嶽山、富士山、箱根山、伊豆大島、九重山、阿蘇山、雲仙岳、霧島山（御鉢）、口永良部島
	平常	上記以外の活火山



図 1 噴火警報発表中の火山（6月17日現在）

## 【警報発表中の火山の活動状況及び警報事項】

### 三宅島<sup>みやけしま</sup> [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

噴煙高度は火口縁上100～200mで経過した。

6月17日に行った現地調査では、二酸化硫黄の平均放出量は一日あたり800トン（前回6月1日700トン）と、依然として多い状態が続いている。

火山性地震はやや多い状態で経過した。

三宅村によると、山麓では時々高濃度の二酸化硫黄が観測されている。

今後も山頂火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、山頂火口周辺（雄山環状線内側）では噴火に対する警戒が必要である。また、火山ガス予報で火山ガスの濃度が高くなる可能性があるとして予想される地域では、火山ガスに対する警戒が必要である。降雨時には土石流に注意が必要である。

### 硫黄島<sup>いおうとう</sup> [火口周辺警報（火口周辺危険）]

独立行政法人防災科学技術研究所の観測によると、地震活動は落ち着いた状態で経過している。

国土地理院の観測によると、2006年8月以降みられている島全体の隆起を示す地殻変動は、2009年10月頃から一時停滞していたが、2010年5月以降再び隆起の傾向がみられる。島内南北方向の伸びの傾向は継続している。

火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、これまで小規模な噴火が発生した島東部の海岸付近、島西部（井戸ヶ浜等）及び南東沖では噴火に対する警戒が必要である。

### 福徳岡ノ場<sup>ふくとくおかのば</sup> [噴火警報（周辺海域警戒）及び火山現象に関する海上警報]

今期間、観測は行われなかった。海上保安庁海洋情報部、第三管区海上保安本部及び海上自衛隊による上空からの観測では、福徳岡ノ場付近の海面には長期にわたり火山活動によるとみられる変色水等が確認されている。

小規模な海底噴火が発生すると予想されるので、周辺海域では噴火に対する警戒が必要である。

### 霧島山（新燃岳）<sup>きりしまやま しんもえだけ</sup> [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

火山性地震は増減を繰り返しながらやや多い状態で経過した。火山性微動は観測されていない。

遠望カメラによる観測では、16日に噴煙が火口縁上50mまで上がるのが確認された。

火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生する可能性があるため、火口から概ね1kmの範囲では、大きな噴石<sup>1)</sup>に警戒が必要である。風下側では降灰及び小さな噴石<sup>1)</sup>（火山れき<sup>2)</sup>）にも注意が必要である。

1) 噴石については、大きさによる風の影響の程度の違いによって飛散範囲が大きく異なる。本文中「大きな噴石」とは、「弾道を描いて飛散する大きな噴石」のことであり、「小さな噴石」とは、それより小さく「風の影響を受ける小さな噴石」のことである。

2) 霧島山・桜島では「火山れき」の用語が地元で定着していると考えられることから、付加表現している。

### 桜島<sup>さくらじま</sup> [火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）]

昭和火口では12日から爆発的噴火の回数が増加した。今期間中の爆発的噴火は27回で、このうち12日22時53分の噴火では大きな噴石が3合目（昭和火口から1,300～1,800m）まで達した。また、同火口では13日から夜間に高感度カメラ<sup>3)</sup>で確認できる程度の微弱な火映が時々確認された。火映が観測されたのは4月25日以来である。

火山性地震は少ない状態で経過している。また、噴火に伴う火山性微動が発生している。

国土地理院のGPSによる地殻変動観測では、始良カルデラ（鹿児島湾奥部）深部の膨張による変化が引き続き観測されており、2010年初め頃から、桜島島内においても伸びが観測されている。

昭和火口及び南岳山頂火口から 2 km 程度の範囲では、大きな噴石<sup>1)</sup>及び火砕流に対する警戒が必要である。風下側では降灰及び小さな噴石<sup>1)</sup>(火山れき<sup>2)</sup>)にも注意が必要である。降雨時には土石流に注意が必要である。

3)九州地方整備局大隅河川国道事務所が黒神河原上流に設置したカメラ等による。

**薩摩硫黄島 [火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)]**

硫黄岳山頂火口では噴煙は観測されなかった。

火山性地震はやや多い状態が続いている。

硫黄岳山頂火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、火口から概ね 1 km の範囲では噴火に対する警戒が必要である。風下側では降灰及び小さな噴石<sup>1)</sup>にも注意が必要である。

**諏訪之瀬島 [火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)]**

御岳火口では、今期間噴火は確認されなかったが、長期にわたり噴火を繰り返している。

火山性地震及び火山性微動は消長を繰り返しながらやや多い状態が続いている。

今後も御岳火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、火口から概ね 1 km の範囲では大きな噴石<sup>1)</sup>に警戒が必要である。風下側では降灰及び小さな噴石<sup>1)</sup>にも注意が必要である。

**【噴火予報発表中の火山の活動状況及び予報事項】**

上記以外の火山では、期間中、火山活動に特段の変化はなく、予報事項に変更はない。

**【参考】 噴火警戒及び噴火予報と噴火警戒レベル等の対応表**

噴火警戒レベル導入火山		噴火警戒レベル未導入火山
噴火警戒レベル(キーワード)	警報・予報	警戒事項等(キーワード)
レベル5(避難)	噴火警報	居住地域嚴重警戒 または山麓嚴重警戒
レベル4(避難準備)	火口周辺警報	入山危険
レベル3(入山規制)	噴火予報	火口周辺危険
レベル2(火口周辺規制)		平常
レベル1(平常)		

海底火山については、噴火警報(キーワード:周辺海域警戒)と噴火予報(キーワード:平常)で発表する。